『新 言語文化』（言文 015-902）年間学習指導計画作成のための資料

科目 言語文化	単 位 数	2 単 位
	学科・学年・学級	
	使用教科書・副教材等	『新 言語文化 改訂版』（三省堂）

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
4	入門 読書の意義について考える	2	<p>「食器棚の奥で」 「魔法を知る」 ●文章に表れたものの見方・考え方を捉える</p>	<p>1 「食器棚の奥で」を読み、概要を把握する。 2 「魔法を知る」を読み、概要を把握する。 3 筆者がこめた思いをそれぞれ整理する。 4 それぞれの文章の内容をふまえて自分のこれまでの体験を振り返り、気づいたことや考えたことを話し合う。</p>	<p>知識及び技能 我が国の言語文化 カ 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。 思考力・判断力・表現力等 読む イ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。</p>	<p>知識・技能 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 思考・判断・表現 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+[粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている]。 例) 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めたり、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p>
			「単元の学習を振り返ろう」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
4 ～ 5	1 言語文化について考える	9	「古文の世界へ」 「児のそら寝」(宇治拾遺物語) ●古文に親しむ	1 「古文の世界へ」を読む。 2 「いろは歌」を歴史的仮名遣いに注意して繰り返し音読する。 3 「児のそら寝」を歴史的仮名遣いに注意して繰り返し音読し、リズムや響きを感じ取る。 4 現代の文章と、古文の文章の表記や語句にはどのような違いがあるか、「五十音図」を参考にしながら探す。 5 「児のそら寝」を、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 6 「児」がしばらく経ってから返事をした理由をまとめ、「僧たち」が笑った理由を話し合う。	知識及び技能 我が国の言語文化 ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。 エ 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。 オ 言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めること。	知識・技能 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 ・言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。
			「漢文の世界へ」 「故事二編 借虎威／蛇足」 ●漢文に親しむ	1 「漢文の世界へ」を読む。 2 「漢文の格言」を繰り返し音読する。 3 「借虎威」を書き下し文にする。 4 繰り返し音読し、リズムや響きを感じ取る。 5 傍訳を参考にしながら大意を捉える。 6 「百獸」が逃げた本当の理由を説明する。 7 「蛇足」を書き下し文にする。 8 繰り返し音読し、リズムや響きを感じ取る。 9 傍訳を参考にしながら大意を捉える。 10 「吾能為之足。」と言った者の心情を説明する。 11 「虎の威を借る」や「蛇足」という言葉があてはまる物事を身のまわりから探し、発表する。	思考力・判断力・表現力等 読む ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。 イ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。 オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。 ◆イ 作品の内容や形式について、批評したり討論したりする。	思考・判断・表現 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。
			「近現代文学の世界へ」 「ゴール」 ●近現代の文学に親しむ	1 「近現代文学の世界へ」を読む。 2 「言文一致の歩み」を仮名遣いや文体に注意して、繰り返し音読する。 3 「ゴール」を通読し、概要を把握する。 4 登場人物の言動から感じられる印象を書きとめる。 5 「はい、スタート」という「声」の意味について、自分の考えをまとめる。 6 作品の内容や表現を踏まえて、「ゴール」という題名にこめられた意味について、自分の考えをまとめる。		主体的に学習に取り組む態度 ・ [知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解したり 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもったりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(2)エ、読む(1)オ、の場合
			「単元の学習を振り返ろう」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
5	春を切り抜く	2	「随筆に表す」 ●素材のよさや味わいを生かす	<p>1 春を題材とした俳句の中から一句を選ぶ。</p> <p>2 選んだ俳句について、季語やその意味などを調べる。</p> <p>3 選んだ俳句の内容にふさわしい写真を一枚選ぶ。</p> <p>4 選んだ俳句と写真について、その俳句や写真を選んだ理由を書き出す。</p> <p>5 「書き方のポイント」を参考にしながら、140字程度の随筆を書き、選んだ写真と俳句を添える。</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>我が国の言語文化 ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。</p> <p>思考力・判断力・表現力等 書く ア 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。</p> <p>◆ア 本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする。</p>	<p>知識・技能 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</p> <p>・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。</p> <p>思考・判断・表現 ・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)イ、書く(1)ア、の場合</p>
			「学習の振り返り」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ❖言語活動例	評価規準
6 7	2 構成や展開について考える	9	「絵仏師良秀」(宇治拾遺物語) ●文章の構成を捉える	1 文章を音読し、大意を捉える。 2 本文中に二度出てくる「あさましきこと」が、それぞれどのようなことを指すか、説明する。 3 「良秀」にとっての「せうとく」とは何か、説明する。 4 最後の一文がない場合、「良秀」の言動に対する印象がどのように変わるか書き出す。 5 最後の一文があることによって、どのような効果が生まれているか話し合う。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。 エ 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。 我が国の言語文化 イ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。	知識・技能 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。
			「十八史略 鶏口牛後／先従隗始」 ●文章の展開を整理する	1 「鶏口牛後」を読み、大意を捉える。 2 「鶏口牛後」の話の内容を簡潔にまとめる。 3 「蘇秦」は「肅侯」にどうすることを説いたか説明する。 4 「鶏口」「牛後」がそれぞれどのようなことをたとえているか、まとめる。 5 「先従隗始」を読み、大意を捉える。 6 「先従隗始」の話の内容を簡潔にまとめる。 7 「涓人」が死んだ馬の骨を買って帰ったのは、どのように考えたからか説明する。 8 「千里馬」「死馬」がそれぞれどのようなことをたとえているか、まとめる。	思考力・判断力・表現力等 読む ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。 ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。 ❖イ 作品の内容や形式について、批評したり討論したりする。	思考・判断・表現 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。
			「羅生門」 ●登場人物の心情の変化とその契機を捉える	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 作品の設定を整理する。 3 場面ごとの「下人」の心情を説明する。 4 「下人」の心に生まれた「勇氣」について、まとめる。 5 「下人」の考えの変化と、そのきっかけになったできごとについて考え、話し合う。 ※広がる読書「作家とよむ『今昔物語集』」		主体的に学習に取り組む態度 ・〔知識・技能の評価規準〕+〔思考・判断・表現の評価規準〕+〔粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている〕。 例) 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解したり、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)エ、読む(1)ア、の場合
			「単元の学習を振り返ろう」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ❖言語活動例	評価規準
7	夏を切り抜く	2	「短歌に表す」 ●構成や描写を工夫する	<p>1 夏を題材とした短歌の中から一首を選ぶ。</p> <p>2 選んだ短歌について、おもしろいと思ったところや気になった表現を書き出す。</p> <p>3 一首の中で何がどのように詠まれているか、構成や描写の方法を読み取る。</p> <p>4 「書き方のポイント」を参考しながら、構成や描写を工夫して短歌を作る。</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方</p> <p>イ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>我が国の言語文化</p> <p>ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。</p> <p>思考力・判断力・表現力等 書く</p> <p>ア 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。</p> <p>❖ア 本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする。</p>	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〔知識・技能の評価規準〕+〔思考・判断・表現の評価規準〕+〔粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている〕。 <p>例) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>※知識及び技能(1)イ、書く(1)ア、の場合</p>
			「学習の振り返り」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ❖言語活動例	評価規準
9 10	3 言語文化の継承と創造について考える	9	「伊勢物語 芥川／筒井筒」 ●物語における心情表現の特徴を捉える	1 「芥川」を音読し、大意を捉える。 2 あらすじを簡単にまとめる。 3 和歌にこめられた「男」の心情を読み取る。 4 「筒井筒」を音読し、大意を捉える。 5 あらすじを簡単にまとめる。 6 「筒井筒…」「比べ来し…」の和歌から、「男」と「女」の心情を読み取る。 7 「風吹けば…」の和歌を聞いた「男」の心情の変化を読み取る。 8 『伊勢物語』を題材にした古典芸能について調べる。 ※広がる読書 作家とよむ『伊勢物語』東下り	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。 オ 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。 我が国の言語文化 ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。 思考力・判断力・表現力等 読む イ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。 エ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。 オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。	知識・技能 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 思考・判断・表現 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 主体的に学習に取り組む態度 ・ 【知識・技能の評価規準】 + 【思考・判断・表現の評価規準】 + 【粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている】 。 例)我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解したり、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(2)ア、読む(1)エ、の場合
			「畏饅頭」(笑府) ●話のおもしろさを支える文章の構造を把握する	1 「畏饅頭」を音読し、大意を捉える。 2 あらすじを簡単にまとめる。 3 「貧士」と「主人」の言動を、順を追って整理する。 4 登場人物の言動の意味を整理する。 ※広がる読書 「落語 饅頭こわい」	エ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。 オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。	
			「講談放浪記」 ●言葉と文化の関係を捉えなおす	1 文章を音読し、大意を捉える。 2 筆者が講談について、『『聖地巡礼』と非常に相性のいい芸能』と考える理由を指摘する。 3 筆者の考える『『敗者に寄り添う』『滅びゆくものを語り継ぐ』といったこの国の美意識』とはどのようなものか、話し合う。 4 「死に様はとても重要だった」と筆者が考える理由をまとめる。 5 筆者は古典作品にどのような「精神性」がこめられていると考えているか、書き出す。	❖ア 我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論、随筆などを読み、我が国の言語文化について論述したり発表したりする。	
			「単元の学習を振り返ろう」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ❖言語活動例	評価規準
10 ～ 11	4 人物像や心情について考える	9	「史記 鶏鳴狗盗」 ●人物の特徴を捉える	1 「昭王」が「孟嘗君」を殺そうとした理由を説明し、「昭王」が「孟嘗君」をどのような人物だと考えていたか、まとめる。 2 「昭王」が「孟嘗君」を釈放した理由を説明する。 3 「昭王」がどのような人物だと読み取れるか、まとめる。 4 「賓客」が「孟嘗君」に従った理由を説明し、「孟嘗君」がどのような人物だと読み取れるか、話し合う。 ※広がる読書「夜をこめて鳥のそら寝ははかるとも……」	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 エ 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。	知識・技能 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。
			「平家物語 木曾の最期」 ●人物像を批評する	1 文章を音読し、大意を捉える。 2 文章中の表現から、「義仲」の心情を捉える。 3 文章中の表現から、「兼平」の心情の変化を捉える。 4 「義仲」と「兼平」がどのような人物として描かれているか、それぞれの表現を比較してグループで意見を交流する。 ※広がる読書「作家とよむ『平家物語』」	我が国の言語文化 オ 言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めること。	思考・判断・表現 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。
			「待ち伏せ」(ティム・オブライエン・村上春樹訳) ●心情表現の多様さを捉える	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 文章中の表現をもとに、「いま」の「私」の心情について、考えをまとめる。 3 文章中の比喻を用いた表現をもとに、「私」の心情の変化を捉え、説明する。 4 「私」が戦争の話を書き続けている理由について、考えをまとめて話し合う。 ※広がる読書「翻訳の神様」	思考力・判断力・表現力等 読む ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。 ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。 オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。 ❖イ 作品の内容や形式について、批評したり討論したりする。	主体的に学習に取り組む態度 ・〔 知識・技能 の評価規準〕+〔 思考・判断・表現 の評価規準〕+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例)言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めたり、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(2)オ、読む(1)ウ、の場合
			「単元の学習を振り返ろう」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
11	秋を切り抜く	2	「詩に表す」 ●語句や表現技法を吟味する	<p>1 風景を描いた詩や印象的な表現が用いられた詩を探し、感想を交流する。</p> <p>2 秋に関する体験や思い、発見、感じたことなどの中から、自分が伝えたいことを書き出す。</p> <p>3 前項について、「書き方のポイント」を参考にしながら、効果的に伝わる語句や表現技法を用いて詩を作る。</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>我が国の言語文化 ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。</p> <p>思考力・判断力・表現力等 書く イ 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。</p> <p>◆ア 本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする。</p>	<p>知識・技能 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。</p> <p>思考・判断・表現 ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。</p> <p>例) 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしたり、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>※知識及び技能(1)ウ、書く(1)イ、の場合</p>
			「学習の振り返り」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
11 ～ 12	5 言語文化としての韻文について考える	9	「漢詩四編」 ●漢詩に描かれた情景や心情を捉える	1 四編の漢詩を音読し、リズムや響きを味わう。 2 それぞれの漢詩にうたわれている心情を、漢詩が作られた時代や作者のおかれていた状況をふまえて説明する。 3 四編の漢詩の中から一編選び、感想や印象を文章にまとめる。 ※広がる読書「漢詩から詩へ」	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 オ 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。 我が国の言語文化 ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。 エ 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。 思考力・判断力・表現力等 読む エ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。 オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。 ◆ウ 異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする。 ◆エ 和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりすることなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする。	知識・技能 ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 思考・判断・表現 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 主体的に学習に取り組む態度 ・〔知識・技能の評価規準〕+〔思考・判断・表現の評価規準〕+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解したり、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもったりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。 ※知識及び技能(1)オ、読む(1)オ、の場合
			「和歌十首 小倉百人一首より」 「短歌七首 近代・現代の短歌」 ●和歌・短歌に描かれた情景や心情を捉える	1 十首の和歌を音読する。 2 それぞれ歌の句切れを指摘する。 3 それぞれの歌に表現された情景や心情を、自分の言葉で簡潔にまとめる。 4 七首の短歌を音読する。 5 それぞれ歌の句切れを指摘する。 6 それぞれの歌に表現された情景や心情を、自分の言葉で簡潔にまとめる。 7 「和歌十首」「短歌七首」の中からそれぞれ一首ずつ選び、表現や内容の共通点・相違点について論じる。 ※広がる読書「作家とよむ『百人一首』」		
			「詩四編」 ●詩に表された情景や心情について理解を深める	1 「整のうへ」を繰り返し音読し、表現やリズムの特徴を指摘する。 2 詩を前半と後半に分け、それぞれの情景をまとめる。 3 最後の二行にどのような心情が表現されているか説明する。 4 「……ながれ」の繰り返しがどのような表現効果をもたらしているか、考えを書き出す。 5 「サーカス」を繰り返し音読し、表現やリズムの特徴を指摘する。 6 特徴的な詩句にはどのような様子が表されているか説明する。 7 「シジミ」を繰り返し音読し、表現やリズムの特徴を指摘する。 8 第二連の片仮名表記はどのような印象を生み出しているか、説明する。 9 「私」の思いについて、本文中の表現をもとに書き出す。 10 「コーヒーカップ」について、各連に表れている「わたし」の思いをまとめる。 11 最終連に表れている「わたし」の思いについて、考えたことを書き出す。 12 前項までの内容をふまえて朗読会を開く。		
			「単元の学習を振り返ろう」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
1 2	6 世界に対する認識のあり方について考える	9	<p>「徒然草 神無月のころ／家居のつきづきしく」 ●身のまわりの物事を批評的に捉える</p>	<p>1 「神無月のころ」を音読し、大意を捉える。</p> <p>2 「かくてもあらられるよ」から、筆者の理想とする暮らしぶりについてまとめる。</p> <p>3 「柑子の木」を見た筆者の思いを捉え、筆者の考えを読み取る。</p> <p>4 「家居のつきづきしく」を音読し、大意を捉える。</p> <p>5 筆者が「後徳大寺大臣」が「縄を張られたりける」ことをどのように考えているか、説明する。</p> <p>6 「さてはいみじくこそ」がどのようなことに対する評価かまとめる。</p> <p>7 「神無月のころ」と「家居のつきづきしく」を読み比べて、共通点を探し、本文を引用しながら文章にまとめる。</p> <p>8 まとめたものをグループなどで互いに読み合い、意見を交換する。</p> <p>※広がる読書「作家とよむ『方丈記』」</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>我が国の言語文化 イ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。</p> <p>カ 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。</p> <p>思考力・判断力・表現力等 読む イ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。 ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。 オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。</p> <p>◆イ 作品の内容や形式について、批評したり討論したりする。</p>	<p>知識・技能 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。</p> <p>思考・判断・表現 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。</p> <p>・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。</p> <p>例) 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解したり、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>※知識及び技能(2)イ、読む(1)ウ、の場合</p>
			<p>「論語八章」 ●ものの見方・考え方を振り返る</p>	<p>1 「論語八章」を音読し、大意を捉える。</p> <p>2 それぞれの章で主張されていることを自分の言葉で言いかえて紹介し合う。</p> <p>3 八章の中から印象に残った章を一つ選び、その理由を書き出す。</p> <p>4 選んだ章で主張されていることを自分の言葉で言いかえる。</p> <p>5 選んだ章が自分やその生活とどのように関わっているか書き出す。</p> <p>6 前項で書き出した内容を、「作品例」を参考にしながら文章や絵を使って表現する。</p> <p>※広がる読書「作家とよむ『論語』」</p>		
			<p>「なめとこ山の熊」 ●物語を批評的に捉える</p>	<p>1 文章を通読し、概要を把握する。</p> <p>2 「小十郎」の心情が表れた発言や行動を抜き出し、どのような心情が描かれているか説明する。</p> <p>3 「荒物屋」の主人の前での「小十郎」の態度についてまとめる。</p> <p>4 「それから三日めの晩」におきたできごとがどのようなことを描いているか、話し合う。</p> <p>5 この物語に描かれた自然や環境の捉え方、また登場人物の生き方や生活の仕方について、SDGsの観点から読むとどのようなことが指摘できるか、考えをまとめる。</p>		
			<p>「単元の学習を振り返ろう」</p>	<p>1 適宜、課題に取り組む。</p>		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ❖言語活動例	評価規準
2	冬を切り抜く	2	「俳句に表す」 ●表現の効果を高める	<p>1 「豊かな日々を歳時記と」を読み、俳句の特徴や表現効果について、自分の考えをまとめる。</p> <p>2 冬にまつわる俳句を参考にしながら、歳時記などを活用して自分の創作する俳句の題材を決める。</p> <p>3 「書き方のポイント」を参考にしながら、俳句を創作する。</p> <p>4 自分の思いや考えが効果的に伝わる表現になっているかなどに注意しながら、推敲する。</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>我が国の言語文化 ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。</p> <p>思考力・判断力・表現力等 書く イ 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。</p> <p>❖ア 本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする。</p>	<p>知識・技能 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>思考・判断・表現 ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。</p> <p>例我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしたり、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>※知識及び技能(1)ウ、書く(1)イ、の場合</p>
			「学習の振り返り」	1 適宜、課題に取り組む。		

月	単元	配当時間	「教材名」 ●教材のねらい	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
2 3	選択総合 言語文化と自分とのつながりについて考える	6	<p>「引力に逆らって」 「夢十夜」第一夜 「ミライの源氏物語」 「光源氏の誕生」(源氏物語) 「死諸葛走生仲達」(十八史略)</p> <p>●自らの課題を決め、解釈、批評、表現を追究する</p>	<p>1 探究するテーマと作品の組み合わせを決める。 * テーマと作品は、単独で考えてもよい。 * 作品は、この単元以外で学んだ作品や、自分の関心のある作品でもよい。</p> <p>2 活動の方法を決める。</p> <p>3 選んだテーマと作品を用いて、活動を行う。</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。 我が国の言語文化 ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。 イ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。 カ 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。</p> <p>思考力・判断力・表現力等 書く ア 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。 イ 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。</p> <p>読む ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。 エ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。 オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。</p> <p>◆ア 我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論、随筆などを読み、我が国の言語文化について論述したり発表したりする活動。 ◆イ 作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。 ◆ウ 異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。</p>	<p>知識・技能 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。</p> <p>思考・判断・表現 ・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・[知識・技能の評価規準]+[思考・判断・表現の評価規準]+「粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている」。</p> <p>例) 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解したり、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>※知識及び技能(1)ア、書く(1)ア、の場合</p>
			「学習の振り返り」	1 適宜、課題に取り組む。		